



(様式11)


令和2年1月29日


論文審査の要旨 (課程博士)


生物システム応用科学府長 殿

審査委員 主査 梅澤 泰史 

副査 佐藤 令一 

副査 金勝 一樹 

副査 梶田 真也 

副査 鈴木 丈詞 

学位申請者	第3グループ 平成29年度入学 学籍番号 17703901 氏名 石川 慎之祐
申請学位	博士 (農学)
論文題目	オオムギ種子胚のアブシジン酸応答におけるリン酸化シグナル伝達経路の大規模解析
<p>論文審査要旨 (600~700字程度)</p> <p>本論文では、植物の種子休眠のメカニズムを明らかにすることを目的として、オオムギ種子の解析を行った。種子休眠の制御には植物ホルモンのアブシジン酸が関わっていること、植物のアブシジン酸応答はタンパク質の翻訳後修飾の一つであるリン酸化によって制御されていることなどの知見をもとにして、オオムギ種子のアブシジン酸応答をタンパク質のリン酸化という観点から解き明かそうとした意欲的な研究である。その目的を達成するために、リン酸化プロテオーム解析の実験系を一から立ち上げ、世界でも有数の規模のリン酸化プロテオームデータをオオムギ種子から取得するに至った。さらに、そのデータを解析し、オオムギ種子におけるアブシジン酸応答経路の一端を明らかにするとともに、新規な有用遺伝子の発見にもつなげており、学術的に高く評価できるものである。一連の研究は、2本の筆頭著者論文として国際誌に発表済みである。以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士(農学)の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。</p>	
<p>【審査経過】</p> <p>(通常の審議の場合)</p> <p>令和元年12月6日 令和2年3月博士後期課程修了に係る学位申請</p> <p>令和2年1月8日 審査委員の選出・指名・付議、論文審査委員の付託 (運営委員会)</p> <p>令和2年1月28日 学位論文発表会</p> <p>令和2年2月21日 グループ会議で論文合格及び最終試験合格を承認</p> <p>令和2年3月4日 学位授与認定・修了認定 (教授会)</p>	